

# 進路のしおり

『地域の中で生きてゆく』

～共に高め合う QOL～



桜やチューリップの画像をインターネットで検索し、イメージしました。表情や視線、スイッチ等でやりとりしながら、手首の支援を受けて描きました。



「しだれ桜とチューリップ」 高等部3年・訪問学級 歌川 結月さん(埼玉県立蓮田特別支援学校)

この冊子は、県内の肢体不自由特別支援関係校が集まって、毎年編集発行されているものです。小学部に入学をし、高等部を卒業するまでの12冊の冊子をご覧になって、日々の、あるいは将来の豊かな生活を送っていただくよう、願っております。

第30号では、医療的ケアを必要とする児童・生徒を中心に、地域の中での暮らしについて、スポットを充てさせていただきました。これからの卒業後の生活について考えるためのご参考となれば幸いです。

## <目次>

相談支援事業について	P.1～2
医療的ケアの対応をしている事業所一覧	P.3
グループホームみらい	P.4～P.6
多機能型事業所ブランカ	P.7
デイセンターいぶき	P.8
家族や地域とともに自分らしく	P.9～P.10
在宅就労	P.11～P.12
株式会社 ePARA	P.13～P.14
重度障害のある方の授業	P.15～P.16
共に生きる「きょうだい児」	P.17
用語解説	P.18

- 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部肢体不自由特別支援学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会 ● 埼玉県特別支援学校校長会

## 地域資源の活用

# 相談支援事業について

児童生徒に関する相談先としては、学校をはじめ、お住まいの地区の支援課、福祉課などの行政機関があるかと思いますが、このほかにも障害のある人の生活全般の相談、福祉サービスの活用、卒業後の生活といった相談が行える場所として、障害者生活支援センターや相談支援事業所があります。

任意ではありますが、この相談支援事業をすでに活用している方もいるかと思いますが。今回、さいたま市西区障害者生活支援センターで、この相談支援事業についてお話を伺いました。

## 相談支援事業は、どこで行っていますか

市町村によっては、障害者生活支援センター等を設置し、そこで、障害のある方の生活面や福祉サービスなどの相談を包括的に行っています。このほかにも、地域の事業所が、市町村からの指定を受けて相談支援事業を行っています。卒業後の福祉サービスの利用や在校中の福祉サービスの利用については、お住まいの地区の支援課等にお問い合わせいただければ、これらの相談を行っている事業所を教えてください。また、市や県のホームページ等でも調べることができます。



## 相談支援事業には、どのようなものがありますか

相談支援事業のサービスには、計画相談、障害児相談、地域相談があります。また、地域相談には、地域移行支援と地域定着支援がありますが、この地域相談は、学校卒業後の相談になるため、特別支援学校の児童生徒においては、計画相談や障害児相談が中心になります。

サービスの利用に限らず、日常生活での困りごと、各種制度についてご不明な点等についても専門知識をもった相談員に相談することもできますのでお気軽にご相談ください。

計画相談	障害のある方に対して、障害福祉サービスの申請前の相談や申請をするときの支援、サービス等利用計画の作成、事業所との連絡調整を行う。	
障害児相談	障害のある児童に対して、障害児通所支援申請前の相談や申請するときの支援、障害児支援利用計画の作成、事業所との連絡調整を行う。	
地域相談 ※卒業後	地域移行支援	障害者支援施設に入所している障害のある方や精神科の病院に入院している精神障害のある方に対して、住居の確保や地域生活に移行するための相談や必要な支援を行う。
	地域定着支援	居宅において単身等で生活する障害のある方に対し、常時の連絡体制の確保や障害特性に起因する緊急の事態等に関する相談や必要な支援を行う。

## 相談対象は

障害のある方ご本人やその家族です。障害種別については、全ての障害に対応できる場所もあれば、対応できる障害を定めている事業所もあります。ご連絡される際にご確認ください。また、在校中から引き続き

学校卒業後も生活面のほかに就労や一人暮らしについてなど、長期にわたって相談を行っている事例もあるなど、継続的な相談が可能です。

## 相談の手続きや費用は

お近くの障害者生活支援センターまたは、相談を行っている事業所に直接ご連絡ください。電話で解決してしまうこともありますし、直接お会いしてお話を伺う場合は、場所によっては、予約が必要になることもありますので、まずは、電話で連絡してみてください。なお、費用はかかりません。

## 特別支援学校の子どもたちにとっての活用は

**小学部から** まずは、子どものサービスを中心とする計画相談があります。障害のある子どもたちが利用できる福祉サービスについて相談したり、障害児支援利用計画を立てたりします。保護者の方が、ご自身で申請を行うセルフプランでも福祉サービスの利用は可能ですが、ヘルパーの利用や短期入所に関する情報等も含め、まとめて相談することができ、途中のモニタリングでサービス内容を見直したり、事業所に施設との連絡・調整をお願いしたりすることができます。

**高等部になると** これまでの相談に加え、成人後を想定した計画相談になります。成人が、満18歳に引き下げられ、高等部卒業後は、子どものサービスから大人のサービスに切り替わるため、使えなくなるサービスや逆に使えるようになるサービスについて相談しながらサービス等利用計画の作成を進めていきます。特に、生活介護施設の利用は、障害支援区分\*1の認定が必要になるため、その準備も一緒に進めていくことになります。

相談は、お早めに!

## 相談支援事業を活用するにあたって

高等部3年生の卒業後に向けた準備は、年明けから3月に向けてが、ピークになります。また、そのほかの相談においても、年度が切り替わる時期となるため、3月は、どの事業所も混み合うことが想定されます。障害支援区分の認定は、誕生日の3か月前から準備を始めることができますので、特に卒業後の生活に関する相談については、高等部段階の早い時期から定期的に相談されることをおすすめします。

## 保護者への一言



「こんなこと相談していいのかな?」と思うような些細なことでも、遠慮せず、まずは相談してみてください。

「働きたい」「一人暮らしがしたい」などの成人後の生活についても遠慮せず、相談してみてください。



お話を伺ったさいたま市西区障害者生活支援センター(ゆめの園)の のなか野中さん(上)と まつむら 柏村さん(下)

(文責:大美賀)

# 埼玉県内の医療的ケアの対応をしている事業所一覧

事業所一覧は、令和5年12月末現在の情報です。医療的ケアに関しては、事業所により対応できる医療行為の範囲が異なります。その時々体制等の事情により、以前はできていたことができないということもございます。

気になる事業所があった際には、各御家庭から各事業所にお問い合わせいただき、最新の情報を確認していただくことが必要です。よろしくお願いいたします。



※上図は、埼玉みどりのポータルサイトより



## 北部地域 (秩父地域含む)

秩父市	熊谷市
ふあいん・ユウ(生活介護)	太陽の園(生活介護)
深谷市	ほほ笑み(生活介護)
ライムライフ在宅ケアセンター(共生型)	新光苑(生活介護)

## 西部地域

毛呂山町	志木市
光の家療育センター(生活介護)	ワーク&ライフステーション 志木すだち(生活介護)
和光市	すずらん(生活介護)
ゆめちか(生活介護)	新座市
日高市	新座みちるべ(生活介護・就B)
第5かわせみ(生活介護)	けやきの家(生活介護)
ごんたやま(生活介護・就継B型)	人間市
所沢市	フラミンゴ(生活介護)
所沢市立こあふる(生活介護)	大樹の里(生活介護)
所沢市立プロベラ(生活介護)	人間サービスセンター大樹(生活介護)
所沢市立キャンパス(生活介護)	坂戸市
光の園(生活介護)	ラポリベース(生活介護)
しもとみ大樹(生活介護)	さかど療護園(生活介護)
千笑里(生活介護)	三芳町
鶴ヶ島市	くろす(生活介護)
ブランカ(生活介護)	三芳太陽の家(生活介護)
きいちご(生活介護)	東松山市
富士見市	アドヴァンス(生活介護)
てらす(生活介護)	あすみーる(共生型)
飯能市	スマイルジャム(生活介護)
太陽の丘(生活介護)	川越市
みなかみ(生活介護)	第2いもの子作業所(生活介護)
狭山市	liveステーション上野田町(生活介護)
しのめ(生活介護)	ともいき(生活介護)
大樹の家(生活介護)	ゆかりの木(生活介護)
機メルフィス(生活介護)※R6.9開所	

## 東部地域

久喜市	行田市
らいふれっさ(生活介護)	ルピナス(生活介護)
羽生市 <th>松伏町</th>	松伏町
希望の里(生活介護)	中川の郷療育センター(生活介護)
白岡市	重症児者デイサービスyes(生活介護)
多機能型事業所クローバー(生活介護)	越谷市
蓮田市	重症児者デイサービスあすなる(生活介護)
蓮田太陽の里大地(生活介護)	コスモ重心型生活介護ヴィヴ(生活介護)
	草加市
	草加市社会福祉事業団そよかぜの森(生活介護)※草加市在住の方のみ

## 中央地域

戸田市	上尾市
もくせい園(生活介護)	ピュアスマイル(生活介護)
にじの杜(生活介護・就B)	ふじ学園(生活介護)
川口市	ハナミズキ(生活介護)
デイセンターいぶき(生活介護)	鴻巣市
桶川市	陽(生活介護)
ひより(生活介護)	さいたま市北区
さいたま市見沼区	いーはとーぶ(生活介護)
さいたま市春光園けやき(生活介護)	街のステーション(生活介護)
ななほし(生活介護)	さいたま市中央区
ダイアリー(生活介護)	さいたま市みずき園(生活介護)
さいたま市西区	さいたま市緑区
杉の子学園(生活介護)	さいたま市大崎むつみの里(生活、就B、就移、自立訓練(機能・生活))
あかしあ森(生活、就B、就A)	てとて(生活介護)
ゆずり葉(生活、就B、就A)	そらの郷(生活介護)
すこやか倶楽部(生活介護)	さいたま市南区
やじろべえ(生活介護)	デイセンターさくら草(生活介護)
ウェントス指扇(生活介護)	デイセンターアトム(生活介護)
楽しいわが家(生活介護)	さいたま市岩槻区
みらいと(生活介護)	さいたま市槻の木(生活介護)
ゆいまーる(生活介護)	多機能型事業所ぼとぶ館(生活介護)
さんご指扇(生活介護)	さいたま市桜区
生活介護とっぼ(仮称)※R6.3開所	けやき(生活介護)

# 社会福祉法人 <sup>すばる</sup> 昴 「グループホームみらい」

～医療的ケアの必要な重症心身障害者の方のグループホーム～  
介護サービス包括型共同生活援助 -この街で暮らすこと-

## みらい



2011年4月開設 定員7名(男性4名・女性3名)  
全員区分6 20代～30代(平均31歳)



〒355-0005  
東松山市大字松山2160-1  
TEL 0493-59-9005  
運営:社会福祉法人 昴

### 開設の経緯

- ・児童通園施設(昴)からの仲間(親)達で、いつかはグループホームと夢のように思っていた。
- ・2009年に仲間7名で昴に話を持ちかける。
- ・昴としても、医療的ケアの必要な方のグループホームは必要と考え開設準備へ。
- ・2011年4月開設

### 入居者の方の生活

#### 1週間の流れ(例)～オーダーメイドの生活～

	月	火	水	木	金	土	日
朝	みらい	みらい	みらい	みらい	みらい	みらい	みらい
日中	生活介護3か所/重度訪問介護/ご家族					自宅ヘルパー	自宅みらい
夕方	みらい	みらい	みらい	みらい	みらい	自宅みらい	みらい

日中の過ごし方5パターン	ヘルパー事業所8か所	訪問看護ステーションの利用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護3か所</li> <li>・重度訪問介護*2</li> <li>・ご家族</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人がサービス(事業所)を選択する</li> <li>・風通しの良いホーム</li> <li>・1事業所では抱えきれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間緊急連絡が可能</li> </ul>

#### ○本人がサービスを選択すること

本人がサービスを選択することは福祉サービスの基本であり、本人の大切な権利なので、「みらい」に暮らしたから全部「みらい」で完結するということは意識的に避けている。

#### ○人間関係は財産

「みらい」に入居する前からずっと関わっているヘルパーさんが、「みらい」にも来てくれている。特に、重症心身障害\*3の方々にとって、人間関係をつくることは簡単なことではないので、長く関わり、本人をよく知っている人は財産。

#### ○風通しの良いホーム

朝や夕方には必ず外部の事業所(ヘルパーや訪問看)さんに来てもらえるようにしている。また、入居者の家族はいつでも気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。こうした風通しを良くする工夫は、長く支援の質を維持する上で必須と考えている。

## 医療的ケアと連携

### ～医療的ケア提供体制イメージ～

本人	・家族との関係 ・生活介護 ・グループホーム利用 ・居宅介護	↑ 重層的に支える仕組み
介護職	・本人にとって身近な存在 ・医療行為ではない行為(座薬・浣腸など) ・認定特定行為業務(吸引・注入)	
グループホーム 看護師	・介護職員への研修 ・医療連携体制加算*4 ・家庭で行う範囲の医療的ケア ・マニュアル作成	
訪問看護	・医療機関 ・主治医と連携	
主治医	・グループホーム近くの医療機関 ・往診	

### ◇重層的に支える仕組み

医療的ケアは内容によって、介護職が対応できるケアと、看護師が対応するケアの役割分担を明確にして支援体制を構築している。本人の近くには介護職がいて、日々の生活や活動など多くの場면을支援する。グループホーム看護師はその介護職の身近な存在としてスーパーバイズを行う。医療のことは訪問看護や主治医の先生と連携して対応する。このように、入居者一人一人に「重層的に支える仕組み」を構築することで、医療的ケアを提供している。

### ◇みらいでの医療的ケア

#### 吸引(口・鼻・気管カニューレ)

・カテーテルを鼻、口、気管カニューレから入れて、安楽な呼吸のために、気道に貯留した分泌物を除去して気道の開通を維持させるケア。

#### 注入(胃ろう、経鼻経管)

・シリンジやチューブなどを使って、食べ物や薬を直接胃に入れること。鼻から胃や腸までチューブを通して、流動食や水分を注入する経鼻経管栄養、胃に直接栄養を送り込む胃ろう注入等がある。

#### 在宅酸素療法

・酸素が十分に取り込めない人のために、足りない酸素を補うケア。

#### 導尿

・「カテーテル」と呼ばれるチューブを使用して尿を人工的に体の外に出すケア。

#### 経鼻エアウェイ

・舌根沈下による気道閉塞が疑われる場合の気道確保、または舌根沈下予防のために用いる医療器具。

#### 人工呼吸器

・呼吸障害・呼吸不全に対して、呼吸の補助や代行をする機器。

## 入浴

### ◇みらいの入浴

【一般浴】



【機械浴】



入浴はとても大切なケア。みらいでは、希望する利用者は毎日入浴可能。機械浴と一般浴があり個々の実態や生活等に応じて利用している。個人で契約しているヘルパーとみらい職員による介助。また、日中の活動先の事業所で入浴してみらいに帰宅する入居者もいる。それぞれ、好きな入浴剤でバスタイムを楽しんでいます。

## 施設の様子・設備



【外観】



【リビング】



【個別の部屋】



【キッチン】

東松山市北東部の緑豊かで、のどかな場所にグループホームみらいがある。

広いリビングは、食事やテレビ鑑賞、入居者のくつろぎの場として使われている。また、入居者7名それぞれに個室があり、入口にはお気に入りのキャラクター等で装飾されたネーム札が設置されている。部屋の中は、一人ひとりの生活空間となっており、ベッドや布団のほか、個々に必要なケア物品や生活用品等が収納されている。

## 共通ノート

共通のノートは家庭・グループホーム・生活介護事業所・ヘルパーをつなぐ記録で常に本人が持ち歩き、記録する内容は「健康」「活動」「想い」に分けられている。

「健康」：睡眠や排便、痰の性状や胃ろう部の状態、緊張の有無などの健康面について記録し、日々変化する体調を共有する。処方薬も変わることがあるので、そうした引継ぎも記録している。

「想い(ひとことコーナー)」：このノートでいちばん楽しい所。健康や活動を通じて支援者が感じた「本人の想い」を「本人のひとこと」として記入している。支援する際も、どんな風を感じているのだろうと想像しながら関わるようになった。寝不足の時は「夜遊びしたから今日は眠いよー」、映画に行ったときはその感想を書いたりしている。

「活動」：創作活動や作業、外出、通院等の日々の活動について記録している。その際「〇〇をしました」だけでなく、「〇〇をして、本人がどうだったのか」を記録することで、やったことだけでなく「本人の想い」に注目して日々関われるようになった。

本人の想い、確信はない…  
でも、関わっている人は「何かを感じている」  
その感じた「何か」を関係者で語り合うと、  
「そうそう、そうだよね!」  
そんな共感が生まれることも

## 支援チーム

相談支援  
ヘルパー  
通所  
グループホーム

ご本人  
ご家族

往診  
訪問看護  
訪問薬剤  
訪問リハ

【情報共有ツール】  
・共通ノート  
・マニュアル  
・MCS\*5

## 個別の対応マニュアル

- ・介護職にとってわかりやすい
- ・介護職の対応範囲の明確化
- ・医療職が作成する
- ・ご家族も同意している
- ・医療機関と共有する
- ・必要に応じて随時更新する

【昂の理念】 現在昂では10か所のグループホームを運営していますが、全国的にも取り組みが少ない医療的ケアにも対応できるグループホームは初めての取り組みになります。その「重要性」「期待」と同時にたくさんの課題があることを学んできました。法人や事業所を超えた連携や地域資源のネットワーク、関係機関との協働をさらに進めながら、「この街で暮らすこと」をずっと一緒に進めていきたいと思っています。

(文責：野村)

## みらいの生活費の内訳／月(2023年)

内訳	金額
家賃	37,847
光熱費	29,457
食費	16,000
日用品費	12,000
合計	95,304

・平成23年10月～家賃補助 10,000円

・注入の人は食費0円(合計79,304円)

・生活費は預かり金として、年度で清算。

\*費用は、障害基礎年金で賄える金額。

～働くことを通して自ら輝き、人を輝かせ、社会を輝かせる～

## 合同会社ラボリ 多機能型事業所ブランカ

〒350-2226 埼玉県鶴ヶ島市大字中新田382番地  
TEL: 049-299-7142

坂戸市や川越市に児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護、就労継続支援B型、A型、グループホームの事業を展開する合同会社ラボリが令和5年4月より鶴ヶ島市に新施設を開始されました。

ラボリはエスペラント語で「光り輝くための勤め」の意で、働くという意味があります。この言葉を社名にしたのは、重度の方のご支援をする中で、人は働くこと（人のためになること）で自分自身が輝き、また周囲を輝かせると痛感したからです。重度の障害のある方が仕事をするのは難しいと思われるかもしれませんが、しかし、実際にご本人と接し、力を見出し、サポートするうちにできることが増え、作業に熱心に取り組む姿を見てまいりました。ご本人の力を信じ、生かせる支援の仕事は障害のある方の人生を豊かにする意義あるもので、見違えるように成長される障害のある方々から逆に力をいただいております。

代表：太田 よし美



A棟

### 〈就労継続支援A型〉

本格的な一般就労のイメージを持つ事のできるサービスです。実践しながらの経験を積むことができ、さらには給与も最低賃金が保障されます。企業内での作業訓練となり、1日4時間から5時間程度と大変ではありますが、職場で味わえる会話なども楽しむことができます。



\*仕事内容\*  
排水管の  
防音加工

### B棟

#### 〈生活介護〉 | 日の流れ

- 8:45 ~ 送迎
- 9:30 バイタル測定
- 9:45 朝礼・体操
- 10:00 機能訓練・入浴・生産活動
- 12:00 昼食（ハミガキ・口腔ケア）
- 13:00 バイタル測定
- 機能訓練・入浴・生産活動
- 15:00 おやつ・終礼
- 15:45 ~ 送迎



### 〈放課後等デイサービス〉 重症心身障害型



\*プログラム\*  
運動・スノーズレン・制作・感触等

★看護師や柔道整復師など  
専門職種と連携

★月に1度の嘱託医来所  
(問診、健康チェック)



★カロリー・塩分に考慮した  
多様な昼食メニュー  
個人に合う食形態での提供  
(刻み・ミキサー・ペースト等)

★安全に入浴できるための  
機械入浴の設備



(記事担当：黒田)

どんなに重い障がいがあっても地域の中で自分らしく豊かに暮らしていくために・・・

## 社会福祉法人さくら草 デイセンターいぶき

〒334-0063 埼玉県川口市東本郷1259-3

TEL: 048-497-2317



### ◆◆◆山本宏 理事長からいただいた「デイセンターいぶきのご紹介文」◆◆◆

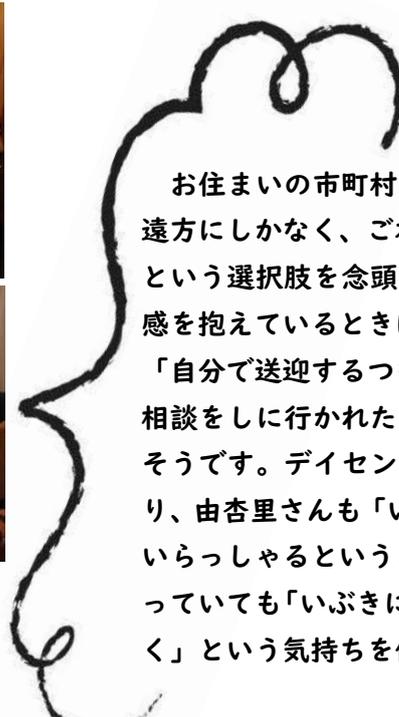
いぶき開設には、重症心身障がいの子をもつ親でもある中里氏の障がい福祉に注ぐ熱い思いがありました。さくら草は、さいたま市で重症心身障がいのある方々の日中活動や社会参加、そして暮らしの場を創り地域生活を支えています。当時の市職員に期待されるなか、中里氏の住居と工場跡地に障がい者施設を建ててくださりました。平成29年春に重心施設として誕生し7年目を迎えました。

### ◆◆◆デイセンターいぶき 近藤守 施設長からのお言葉◆◆◆

特別支援学校を卒業して“デイセンターいぶき”を利用している方も7年間の歩みの中で医療的ケアが必要になった方もいます。医療的ケアの対応については看護師を中心に経鼻経管栄養、ネブライザー、必要時に\*酸素吸入等を行っています。現在は、総利用者数20名に対して、医療的ケアが必要な方は7名です。送迎車による通所をしている方もいらっしゃれば、送迎可能な地域外からご家族の方が送迎をして通所している方もいらっしゃいます。ご本人の体調やライフスタイルに合わせての通所(週1~週5の方)や他の生活介護と併用している方もおります。安定した生活、体調管理を基本に日々の生活を支援しています。 \*酸素吸入…なんらかの理由で酸素が必要な方に酸素を補うことです。



平成30年3月  
越谷特別支援学校卒業  
鈴木由杏里さん



お住まいの市町村に唯一ある医療的ケアの対応をしている事業所が遠方にしかなく、ご本人の体調面を踏まえると、お母様として「在宅」という選択肢を念頭に置いていたということでした。そのような困り感を抱えているときに「デイセンターいぶき」の情報を得て、お母様が「自分で送迎するつもりで」「在宅も覚悟で」、デイセンターいぶきに相談をしに行かれたのがデイセンターいぶきとの最初の出会いだったそうです。デイセンターいぶきでは、職員さんが丁寧に対応して下さり、由杏里さんも「いぶきに行く」ことを意識しつつ、楽しみに通っていらっしゃるということでした。朝、由杏里さんが眠たそうに目をつぶっていても「いぶきに行くよ」と声をかけると目をパッチリ開けて、「行く」という気持ちを伝えているようです。

※お母様からのお話をまとめたものです。

(記事担当 愛甲)

# 「家族や地域とともに、自分らしく」～在宅での生活～

川島ひばりが丘特別支援学校の訪問教育部を平成30年度に卒業した松本勇成(ゆうせい)さんの生活をご紹介します。彼は、学校卒業後もさまざまな経験や取組をしています。周囲のサポートを得ながら、自分らしく、楽しく生きる。サポートする方々との生活の様子を伺ってきました。

## 〈松本勇成さんプロフィール〉

- 障害の状況:起因疾患名 難治性てんかん。四肢麻痺、低酸素性脳症、呼吸不全により常時人工呼吸器を使用。胃ろう、吸引、吸入。  
身体障害者手帳1種1級、療育手帳④
- 生年月日:平成12年8月23日生
- 生育・療育・教育歴:生後9ヶ月けいれん重積発作、人工呼吸(酸素)管理。  
市内児童園通園(平成14年7月～平成19年3月)  
小学部6年時、低酸素性脳症、呼吸器常時装着。国立精神・神経医療研究センター病院入院(小平特別支援学校転学)。平成25年3月川島ひばり訪問教育部に転入～平成31年3月川島ひばり高等部(訪問)卒業。



## それぞれの出会い

現在、勇成さんは23歳になりました。これまで出会ってきた数々の人たちの中で、障がい者の生涯学習を支援する訪問介護事業所「ぼぷり」と、高等教育機関として学びの充実を目指す「みんなの大学校」スタッフとの出会いを紹介します。

### 〈ぼぷりとの出会い〉

高等部卒業後進路として提示されたのは通所のみでした。裏を返せば、通所の難しい生徒にとっては在宅を選択せざるを得なかったのです。卒業後、福祉のサービスを受けながら生活する中で、在学中の訪問教育の授業を懐かしみました。学校卒業後の重症心身障がいの子にも学び続けられる場はないのか…。都内で耳にするようになった『訪問カレッジ』(「地域ケアさぼーと研究所」の下川和洋氏が「訪問カレッジ@希林館」として展開する生涯を通じた学びの場)のような支援を、今の環境で受けることができないだろうか。その思いに応えるため、関係スタッフ一同が輪となり、長年勇成さんと接してきたヘルパーが新たに立ち上げた事業所「ぼぷり」の中で「訪問カレッジ」としての活動を開始することになりました。

### 〈みんなの大学校との出会い〉

始まりは、学長 引地達也氏により所沢市に開設された就労系事業所でした。運営を通じて改めて【学びの場】の確保の必要性を感じ、学びと、はたらくをコンセプトに「シャローム大学校(和光市)」となりました。その後、コロナ禍を機にオンラインでの講義形式を導入することで、全国区として現在の「みんなの大学校(国分寺市)」へと発展しました。勇成さんの学びの場を模索する中で関係スタッフが前述の下川氏に相談し、「学び」のプログラムの参加を機に引地学長と繋がりました。

## どんな過ごしを?

勇成さんは、常時人工呼吸器を装着しています。日常的な外出は中々難しいのですが、通院の道中等で四季の変化に触れています。耳で歌声や楽器の音色を聞いたり、話しかけられたりすることが好きで、舌を大きく出して応えてくれます。

### 〈ぼぷり訪問カレッジでの活動〉



本の読み聞かせや、キーボード演奏、物づくり等の活動を、ベッド上で行っています。やり取りしながら進める事を大切にしています。

調理で蒸しパンを作りました。「五感を使う」ことを意識しているので、最後は口に入れて味わいました!

### 〈みんなの大学校での活動〉



普段は音楽のオンライン講義に参加しています。画面を通して、他の受講者の意見も知ることができます。

誕生日が引地先生と同じなので、訪問に合わせて合同誕生日パーティをしました。直接話して、楽しいひと時を過ごしました。

## ぼぷり訪問カレッジ

- ・NPO法人
- ・スタッフが都度訪問して授業を行う
- ・活動の前後で見守りや医療的ケア等も組み合わせて行っている
- ・訪問頻度は家庭・医療の都合により毎月変動
- ・みんなの大学校、就B(大田校)でリモートで繋ぐ際に、自宅に訪問して作業のサポートを行う

## サポート環境

連携



## みんなの大学校

- ・一般社団法人
- ・リモートで各地を繋ぎ、講義を提供
- ・頻度は週1回50分
- ・みんなの大学校 大田校(就労継続支援B型)
- ・所在地が東京都にある就B事業所
- ・リモートで出席確認し、自宅で実際の作業を行う
- ・頻度は家庭・医療の都合により毎月変動

## 〈就労継続支援 B 型事業所 みんなの大学校大田校での活動〉

～自宅リモートで事業所と繋がり、仕事に取り組む～(在宅ワーク)



おそらく埼玉県初のケースでは??  
就労継続支援B型「みんなの大学校の大田校」に所属し、在宅ワークを実現!! 仕事内容は、広報としてのイラスト制作です。これまでに、作品展への出展や、イラストデザイン(名刺裏、大学校テーマソング等)を行いました。

～青森大学ゼミの学生とZoom交流会～

フェイスブック掲載の作品を見た学生さん達からコラボオファーを受けました。観光地のPR活動をしている学生もおり、昨年度は勇成さんの代わりにぬいぐるみ「ヌクン」と一緒に旅をしました。詳細は、Instagram「ぬい撮り倶楽部」にて。



～作品ホームページの公開～

仲間とともにつくる当事者中心サイト「Caremedia(ケアメディア)」に公開されています。

作品は、『PieceGallery』からご覧いただけます。ぜひ、覗いてみてはいかがでしょうか。



## 〈保護者様より〉

卒業後の不安をケア会議の場で毎回話しをしていたので課題になっていましたが、なかなか理想通りの場所はなく、自宅外に通う事が前提でした。

今まで訪問教育部だったので通う事は難しく、埼玉では無理かなと思ってた所ばぶりで支援して頂けることとなって、感謝しています。

相談員さんにも大学を探していただき大学生にもなれましたし、その後大学で学び、B型事業所の仕事も出来るようになりました。

周りの方々に支えていただいて、勇成も充実した生活を送る事ができて大変ありがたく思っています。

## 〈旧担任より〉

高2から卒業までの二年間、自宅や施設での授業に加え、氷川神社やいちご狩りへ出かけたこともとても思い出深いです。勇成さんの周りには、常に関係者の皆様の温かな笑顔があり、訪問教育の可能性を拓けてくれました。

卒業後も変わらず元気に過ごせていること、とても嬉しく思います。これからもいつまでも応援しています。

## みんなの大学校



障がいのある方や疾患等で支援が必要な方のためのWeb上を基本とした「学びの場」です。18歳以上の方で障害者手帳の有無に関わらず、「学びたい」お気持ちのある方が入学対象です。国の福祉サービス事業でもなく、公的な教育事業ではありませんが、現代の支援が必要な方の学びたいというニーズを研究し、新しい学びの形を実践する中で、生まれた新しい学びの形です。

○全体の学生数、年代など

通所事業所から参加したり、個人参加したり、聴講生・正規学生などさまざまな形がありますが、重度障がい者向けの講義「音楽でつながろう」は50～70人参加があります。

年代は18～60代です。障がい種別も多岐にわたります。

○ご自宅(リモート)の学生数

北海道、岩手、新潟、東京と広く、埼玉には3人の重心者の学生がいます。事業所単位では全国に30人以上います。

○講義登録されている事業所

大きなところでは、全国の就労移行支援、自立訓練を展開するアクセスジョブさんが北海道から九州まで30ヶ所あり、生活介護等3ヶ所、福祉型専攻科では、新潟、名古屋、山梨3ヶ所、聴講型で参加事業所が10ヶ所程あります。

### 【就労継続支援B型 みんなの大学校大田校】

「みんなでまなぶ、みんなではたらく」福祉サービス事業です。

○利用者:17人(通所10人、リモート6人、複合1人)

○作業:大田市場での野菜の詰め込み、地域情報誌の編集、発行、封入、情報収集、創作活動(勇成さん)

○お住まい:東京都及び埼玉県 ○年代:18～60歳

○障がい種:知的、精神、発達、身体

みんなの大学校は「講義を通して学ぶ」、大田校は「仕事を行い、対価を得ながら社会参加をする」という目的の違いがあります。大田校に登録すると大学校の講義も視聴できます。

「学び」、「仕事や社会参加」、「どちらも」皆さんが求めるものに対応します。

気になる方は、HPIにて、ご確認いただけます。

### 【お問い合わせ】

一般社団法人 みんなの大学校 (HPあり)  
〒185-0011  
東京都国分寺市本田2-1-4-201  
TEL:070-3166-1616  
MAIL: info@minnano-daigaku.net

## NPO法人 ぽぷり



### 【サービス内容】

○対象エリア 川越市全域

○受付時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00

○提供サービス

【居宅介護サービス】

ご自宅に伺い、日常生活を営むために必要なサポートを行います。(身体介護、家事援助、通院介助、行動援護)

【移動支援(外出に関する支援)】

【生活サポート】

車両を使用しての送迎サービス、余暇支援を行います。

【訪問カレッジ(重度訪問介護内)】

生涯学習/生活全般に関する援助を行います。

「障がいのために通所が難しいけれど家にこもるだけでなく活動の場が欲しい」、「特別支援学校卒業後も学び続けたい」等、ご希望がある方へご自宅に伺って授業を行います。

・学習活動内容は、ご本人やご家族と相談して希望や興味に沿ったプログラムを組んでいます。

・その他重度訪問介護として、入浴、排せつ、調理、洗濯、移動中の介護、医療的ケア(条件あり)等、生活全般にわたる援助を行います。

・現在の利用者数:4名(個別)、1事業所(集団活動)

・見学や体験、お問い合わせは、メール・

電話から随時受付中です。

・現在、詳細パンフレットを作成中です。

また、右のQRコード(Instagram)にて活動の紹介をしていますので、気になる方はご確認いただけます。



### 【お問い合わせ】

NPO法人 ぽぷり (HPあり)

〒350-1134

川越市扇河岸 40-1 コーポ内河 101 号

TEL:049-293-3697

MAIL:popuri2020@gmail.com

MAIL:popuri.houmoncollege@gmail.com (訪問カレッジ)

(記事担当:澤田)

～「やりたい」を叶える

# 『在宅就労』

という「働きかた」～

熊谷特別支援学校から就労へ 卒業生や家族の思いを振り返る



## 株式会社 沖ワークウェル

代表取締役社長 堀口 明子

本 社 〒108-8551 東京都港区芝浦 4-10-16

蕨事務所 〒335-8510 埼玉県蕨市中央 1-16-8

T E L 03-5445-6805 (代表)

### OKIワークウェルの概要

OKI ワークウェルは沖電気工業株式会社(以下 OKI)の特例子会社\*6として 2004 年に設立されました。

自社「ワークウェルコミュニケーター(在宅勤務向けバーチャルオフィスシステム)」を活用して、通勤が難しい重度の障がいのある社員が在宅勤務をしています。当社が在宅勤務に取り組んだきっかけは、通勤が困難なために働くことを諦めている重度の障がいのある方が数多くいらっしゃることを知ったことでした。企業理念「進取の精神」のもと、働く方が職場に行くという従来の慣習にとらわれず、OKI の得意な情報通信技術を用いて自宅を職場にすることで、多くの方が働けることを目指しました。会社設立から 20 年近くが経ち、現在は 70 名の社員が全国 24 の都道府県にて在宅勤務をしています。(2023 年 4 月 1 日現在)

仕事はパソコンを使い、ホームページの制作、システムの開発、似顔絵やポスター、名刺などのデザイン制作、データの入力や加工、障がいのある方※委託訓練などの教育業務を行っています。

### 株式会社沖ワークウェル

小林 楓(こばやし かえで)さん

【プロフィール】

卒業校:埼玉県立熊谷特別支援学校

入社日:2022 年 4 月 1 日



### 就職のきっかけ

OKI ワークウェルとの出会いは、中学 2 年生の時にかかりつけの病院のリハビリの担当者に紹介されたことです。当時学校では、過去 10 年くらい就労した方が居なかったのが個人的に、「障がい者に就労は難しい」と思っていたのですが、その出会いが私の思いを「障がいがあっても働ける」に変えてくれました。それから OKI ワークウェルに絶対入社すると決めました。

### 在学中に努力したこと

私はパソコンについてあまり詳しくなかったのですが、車椅子でも行けるパソコン教室を探し、パソコン教室に通い Word と Excel の MOS と呼ばれる資格を取りました。その後、入社条件である IT パスポートの勉強をしました。その他にはビジネスメールの練習などを行いました。

### ※委託訓練

障がいのある求職者に対し IT の訓練を実施している。

## 企業が求めているもの

大体の方は「企業が求めているもの」を想像する際にパソコン技術や資格だと思えます。ですが、弊社の場合はコミュニケーション力です。

弊社は独自で作成した音声通話ソフト「ワークウェアコミュニケーション」を使って同僚と相談をしながら業務を行っております。その為、コミュニケーション力は必要不可欠です。

コミュニケーション力はいきなり身につくスキルではありません。日頃から家族や先生方と話すことを心がけて、身につけていただきたいです。



## UTハートフル株式会社

小林 樹(こばやし いつき)さん  
【プロフィール】  
卒業校:埼玉県立熊谷特別支援学校  
入社日:2020年4月1日



## 現在の業務

現在の業務は、転職サイトを使用したスカウト配信の業務を月曜日から金曜日の9時から16時まで行っており、昼休憩の1時間にヘルパーを利用し食事介助してもらっております。

## 在宅就労を目指した理由

私は、筋ジストロフィー症候群という徐々に筋力が落ちていく、進行形の病気です。

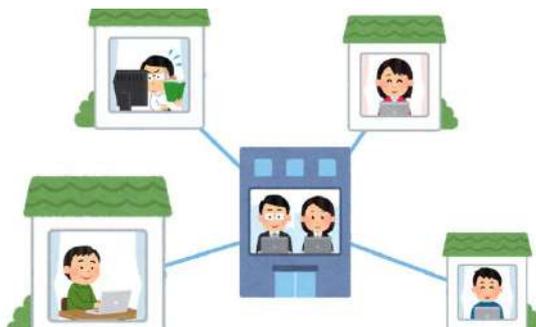
在宅就労を目指した理由は、元々作業所以外の進路先を考えていましたが、企業で働くとなると通勤だけで疲れてしまい、仕事にならなくなってしまうからです。

## 在宅就労で学んだこと

在宅就労をして学んだことは、仕事を行う上で同僚や上司と話をする際にコミュニケーション能力が必要な事です。コミュニケーションソフトを使用して会話をするので、うまく言葉が伝わらない場面があります。できるだけわかりやすい言葉で伝え、相手の言葉を理解する事が必要だと実感しております。当面の目標は、自分の機能を維持しつつ仕事を続けて行くことです。

## 在校生の皆さんに一言

最後に、在校生の皆さんに一言。私は在宅就労をしてみて、自分にあった進路に進めてよかったと思いました。皆さんも自分にあった進路に向けて突き進んでいってください。



## 家族の思い(小林さん・母)

埼玉県には障害を持った人が在宅でできる就労支援施設はあまりありませんでした。本人の身体への負担が少なくすむように在学中から、在宅勤務できるようにパソコン教室へ通い資格取得を努めました。

就職後は、ほとんどパソコンの前から動きません。業務中ですので当然ですが身体の可動域が以前よりも小さくなり車椅子の操作も難しそうに思えます。訪問リハビリを2週間に1回程行っていますが機能維持の為にとても重要だと考えております。

また、1人で過ごす時間が多いので家族以外の人との関わりはとても重要だと考えています。ヘルパーさんとの時間や訪問看護、訪問診察、相談支援員、保健所の担当者との連絡は本人達に任せております。気付けば保健所の依頼で研修の講義を行っていました。仕事をする事は、本人達を成長させているようです。

(記事担当:田野)

「eスポーツ」で障がい者の就労を支援



ePARA

## 株式会社 ePARA

「株式会社 ePARA HP」  
詳細はこちら

2022年杭州アジア大会では正式種目として採用されたり、2023年6月には国際オリンピック委員会がシンガポールで国際大会を開催したりして、近年話題が沸騰した「eスポーツ\*7」。

さて、そんな「eスポーツ」で障がい者の就労支援を行う「株式会社 ePARA」の加藤大貴様にインタビューすることができました。会社設立の経緯や実際にどのように就労に結びつけているのか等お話を聞くことができましたので、ご紹介いたします。



株式会社 ePARA 代表取締役  
加藤 大貴(かとう だいき)様

### 【経歴】

- ・1981年、愛知県生まれ。2007年、法政大学法科大学院修了。
- ・2011～2019年まで国家公務員として裁判所に勤務。  
(2018年にNPO法人市民後見支援協会を設立。副代表に就任)
- ・2019～2021年、社会福祉法人品川区社会福祉協議会に勤務。
- ・2020年、株式会社 ePARA を設立。

### —「株式会社 ePARA」 設立の経緯を教えてください。

裁判所職員を退職した後、社会福祉法人品川区社会福祉協議会で働く中で、成年後見制度にかかわる業務を担当していました。そのような中、2019年に都内で障がい者の就労支援を目的としたeスポーツ大会を初めて開催しました。就労移行支援事業所や企業(人事担当者も含む)が集まり、実際に就職に繋げることができ、手応えを感じた為2020年に株式会社 ePARA を設立しました。

### —「eスポーツ」の利用とは具体的にどのような取り組みですか？

上記のように、福祉的事業所や IT 関連の企業の担当者等の関係者を招待し、「eスポーツ」のイベントを開催することで、eスポーツの選手である障がい者と企業担当者の接点を作ること。そして、実際に選手とコミュニケーションをとることやイベント観戦の中で、人柄や機器の操作スキルを体感していただきながら、企業担当者が求める人材と選手として参加する障がい者の能力をうまくマッチさせることで就労に繋げています。

### —実際に就労に結びついたケースを教えてください。

イベントをきっかけに、これまで10名以上の方が就労に結びついています。具体的には、精神障害を有する方がコールセンターを展開する企業に3名就職しました。また、ゲーム会社に採用され、YouTube でeスポーツの実況配信される方もいます。イベントを機会としたもの以外にも、VR(仮想現実)を使用した職場体験や仕事体験ができる障がい者向けの就職イベントもオンラインで開催したりしました。

### —在学中はどのように参加することができますか。

品川駅徒歩4分(東京都港区)にあります、バリアフリーeスポーツカフェ「Any%CAFE」では、完全予約制ですがオフラインでの交流もできます。また、学校をモチーフにした ePARA の部活動「私立 ePARA 学園」では、毎週水曜日21:00～eスポーツでのオンライン交流ができます。もちろん、eスポーツのイベントにも参加可能ですので、まずは上記QRコードにアクセスし、お問い合わせフォームからお問い合わせください。

—「障がい者向け」の就労支援とは具体的にどのような取り組みですか？

様々な企業と協力し、新規事業所の計画・開所を進めています。具体的には、JR東日本スタートアップ株式会社とコラボし、戸田市に多機能型事業所（就労B型・自立訓練\*8）を開設予定です。また、株式会社パレットとコラボし、令和5年9月に新規開所しました自立訓練事業所「eSTUDIO 大宮オフィス」があります。

☆実際に見学してきました!!

「メタバース\*9」 & 「eスポーツ」の自立訓練



eSTUDIO 大宮オフィス 「eSTUDIO 大宮オフィス HP」

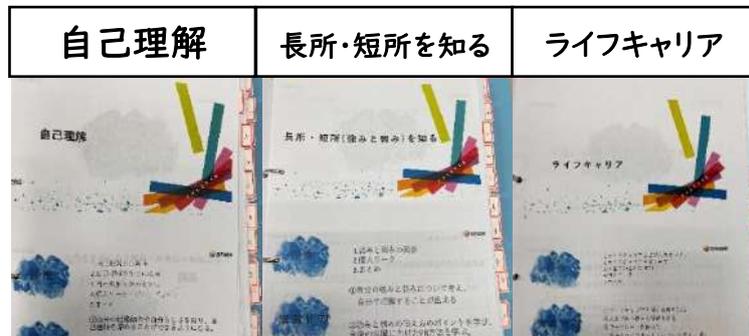
詳細はこちら

## 【講義ルーム】



関本支援員

## 【教材】



綺麗な講義ルームで、20種類を超える教材から訓練を行います。当日は「傾聴力」の講義を体験させていただきました。支援員の関本様の丁寧な板書と説明で進めていただきました。他の教材には「障害者雇用について」など、就労系の内容についても扱っていました。

## 【ゲーミングルーム】



## 【個室】



ソファやクッションがあり、まるで家のリビングにいるかのようなアットホームな雰囲気の中でeスポーツに励んだり、LED 証明で七色に光るキーボードやスタイリッシュなゲーミングチェアでPCを利用したりすることができます。また、集団が苦手な方の居場所や休憩場所として利用できる個室もありました。

(文責:今泉)

# 重度障害のある方へのICTを活用した指導・支援の考え方

埼玉県立宮代特別支援学校  
教諭 後藤 優馬

## I. ICT機器導入の際の考え方

子どもたちへの授業を考える際に、「こんな力をつけたい」「あんなところを狙いたい」そこから授業を組み立てていきますが、集団の授業を考えていく上で、一人一人の実態差は無視できません。

例えば、本校のような肢体不自由校において、体育の授業でリレーをすることでチームの意識やルールを学ぶときに、そもそもどのように「移動」するかが課題になってきます。自力で走ることができる児童、手つなぎであれば歩くことができる児童、車椅子自走であれば参加できる児童、車椅子での自走は難しい児童などクラス内にも多岐に渡った実態差が存在します。だからといって「リレー」をほかの競技に転換するのも手ですが、そこでICT機器の導入と発想の転換で車椅子自走が難しい児童にも「体育」としてリレーに参加することができます。集団学習の中で、この方法なら自分も活動できるのだという自信をつけることが、本人にも支援者にとっても大切な考え方です。

## II. 得意な動きを活かした活動

私が学校で初めて子ども達と向き合う時に見る視点は多々ありますが、肢体不自由のある方々にとって身体のどの部分は動かせる、どの部分には制限があるというのは大切な実態把握の一つです。それも一見、寝たきりのように見える方でも、わずかに指先が動く、眼球が動く、舌が動く、時間がかかっても動かせる場所というのを探ることがICT導入の一歩になります。

次にチェックするのは意図的に動かしている（随意運動）のか不随意運動であるのかというポイントです。①まず意図的に動かすことができている場合、その動きに合うスイッチを選んでいきます。スイッチは棒スイッチ、おにぎりケーススイッチ、指スイッチ、空気圧スイッチ、超音波スイッチ、視線入力等があるので動きの大きさや力加減によって適切なスイッ

チ選択。あとは用途にあったおもちゃや装置をつなげれば得意な動きでの活動に繋がられる。②次に動きはあるが、それが不随意運動であると思われる場合も①と同じように動く部位に適切なスイッチを選択します。

意思確認ができているようだが、それが意図的か否か確認ができない場合、その動きに「意味づけ」をしていきます。この動きをすると音楽が流れる、電気が点く、風が吹く、自分が動くなど感覚に働きかけるフィードバックを繰り返し与えることで動きを強化したり意図的に動かすことができるようになったり、他の部位まで動くようになっていたりすることがあります。ここで注意すべき点として本人にとって嫌な刺激であるような反応や反応が返ってこなかった時にはフィードバックの見直しも必要です。



※スイッチ教材でタンバリンを叩く様子

## III. 家と学校でのICT活用の違い

学校でのICT活用の考え方は上述したように教員と保護者で立てた目標に向かって、教員が授業を組み立てそのうえでICT教材の必要の有無を検討します。しかし、家庭や卒業後の生活を思い描いた日常生活（余暇活動）で使えるものとは性質が

少し異なることがあります。学校では動きの強化や因果関係の理解、自分でできたことの喜びを友達や教員と分かち合うことで教育的意義があります。そのように育った力を家庭や進路先に持ち帰り、今度は社会の構成員の一員として役割を担うことができます。

例えば、家に帰りお風呂を沸かすという支援者が当たり前に行っている家事をSwichBotの指ロボットを給湯器の「ふろ自動」ボタンに装着することでスマートフォン(タブレット)とスイッチでふろのスイッチを入れる役割を担うことができます。確かに環境を設定するための準備は必要ですが、環境を構築することで本人も家族も帰属意識を持つことができます。ここから普段通う、学校、就職先や作業所、デイサービス等にも般化させることで、自分の存在意義を高めるための一つの手段となり得ます。

※SwichBot(スイッチボット)の指ロボットとは、普段人が手動でオン・オフしているスイッチやボタンを、人の代わりにオン・オフしてくれる機械のことです。スマートフォンとスイッチボットを連携させておくことで、鍵を閉め忘れた、電気を消し忘れた時など、スマートフォンから遠隔操作ができるので大変便利です。

#### IV. 進路を見据えて

いくつかの例を挙げると視線入力を利用してPC操作で仕事をしている方がいます。昨今のコロナ禍の影響で「リモートワーク」いわゆる在宅ワークが増えました。多くの業種でオフィスをもたないコスト削減等も伴い、在宅ワークという言葉がより一般的なものになりました。障害による様々な理由による通勤の難しさを解消されている今だからこそ、自分なりのPCスキルを身につけることで、進路の幅が広がると考えられます。別の例では、在学中の話ですが、視線入力にて絵画を行い、それをTシャツやパーカー、スマホケース等のグッズとしてデザインし、保護者がオンラインショップを開き販売しています。在庫管理等は外注をしているそうです。

このようにスキル自体が直接収入につながる選択肢となり得ます。生活介護の作業所では皿で記述した活動を職員と共有することで、利用者の活動

を確立することができます。これは在学中から始めておくに越したことはありませんが、卒業後に考えてもよいことだと思います。



EC サイトのページ

URL; [heart-sun-heart.designstore.jp](http://heart-sun-heart.designstore.jp)

#### V. 「できた」をよろこびに

いつも車いすを押してもらわないと移動ができない方が目の動き、あるいは緊張を活かした手足の動きで動けるようになったらどれほどうれいでしょう。心の中に秘めていたことが、見ただけ、もしくは指先だけで伝えられるようになったらどれほどうれいでしょう。日々進化していく機器やアプリケーションに目をむけそれをうまく活用できないかを考える。世の中にありふれているもので、肢体不自由者用のものとして取り扱っているものは少ないが、考え方や発想の転換によりカスタマイズすることで一気にQOLが高まるものが多く存在しています。

今やSNSや配信サイトでは先人たちが創作してきたものが多く公開されています。我々教員もそれらで研鑽しながら子どもたちの将来を見据え導入していくことが教育の質を高めることに繋がっていきます。支援を受けることが多い彼らに「できる経験」の機会を作り、その可能性を広げられるとよいと思います。

(記事担当:堀)

# 共に生きる「きょうだい児」 ～きょうだい児として過ごしてきて～

埼玉県立所沢おおぞら特別支援学校

教諭 川上 優希

## 【「きょうだい児」ってなに・・・？】

「きょうだい児」という言葉を聞いたことがある人もいれば、聞いたことがない人もいるかもしれません。「きょうだい児」とは、障害のある兄弟姉妹を持つ子どものことです。ケアが必要な兄弟姉妹がいる家族の中で育つ「きょうだい児」は、障害者本人でもなく、親でもないからこそ抱える悩みや問題があります。でも、その悩みや問題を発信する場がないのも現状です。

## 【「きょうだい児」の抱える悩みと思い】

「きょうだい児」が抱える悩みは、人それぞれであり、きょうだい児の数もしくはそれ以上あります。例えば、幼児期では、「親が兄弟姉妹に手がかかり、きょうだい児にはかまってもらえず、寂しい思いや我慢することが多い。」「何事も兄弟姉妹が優先しがちになってしまい、きょうだい児は待つことが多く不満に思う。」などを感じる場合があります。学齢期では、「兄弟姉妹に障害があることを、周りに知られることが恥ずかしい。」「友達に兄弟姉妹のことを隠したい。」という気持ちが起こります。しかし、その気持ちをもつことが兄弟姉妹にとって申し訳ないという罪悪感も生まれ、自分との葛藤になります。成人期になると、「障害理解を得られないと結婚できないのではないか。」「親亡きあとには誰が世話をするのか。」という不安を抱きます。親は、「自分が世話をできなくなったら入所させる。」という意見をよく聞きますが、きょうだい児は「できる限り自分たちでなんとかしたい。でも自分の将来も考えると、現実的にはどうなのか。」という悩みが生まれます。

さらに、きょうだい児はこれらの気持ちを親に伝えることができず、自分の気持ちを我慢する苦しさがあります。親からすると、「伝えてほしい。」と思うものです。でも、きょうだい児は兄弟姉妹に自分以上にケアが必要なが分かっているからこそ、我慢をして自分を隠してしまうのです。

立位の補助



摂食介助



## 【「きょうだい児」の心の変化】

「きょうだい児」はどの年齢でも悩みや不安があることには変わりありません。でも、そんな中でも兄弟姉妹に対する気持ちの変化はあるのです。幼児期には、障害の有無にかかわらず、自分が友達と遊ぶときに、兄弟姉妹も混ぜて一緒に遊ぶことも少なくありません。また、障害の状況に応じてできる事を含めた遊びを自然としているのです。さらに、幼いながらに必要なケアを親の真似をしてサポートしたがりです。それが、小学生になると、「なんで兄弟姉妹ばかり。」という想いから、兄弟姉妹のことを避けるようになり、ケアのサポートをしないこともあります。中学生・高校生になるにつれて、「友達に障害のことを知られたくない。」という想いから、自然と友達の会話の中で兄弟姉妹に関する会話を避けるようになります。しかし、家庭では、自分ができる事が分かっているからこそ、兄弟姉妹のケアのサポートを再び行うようになります。そして、大学生・社会人になると、障害の有無など関係なくなり、隠すこともなければ、積極的にケアを行いたいという気持ちになるのです。

きょうだい児は兄弟姉妹のことが大好きなんです。だって家族だから。だからこそ、自分が兄弟姉妹のことで悩んでしまうことに、さらに悩み、嫌悪感を感じてしまう。時には、きょうだい児にも目を向け、想いや悩みを聞き出してあげてみてください。

幼児期と今。  
好きは何も変わらない。



# 用語解説

## \*1 (P.2) 障害支援区分

障害者総合支援法におけるサービス利用申請に対する支給を障害や心身の状態等により必要な支援を1～6段階に分けた区分である。

1が支援の度合いが低く、6がもっとも高くなる。受きたいサービスによって区分認定が必要なものとそうでないものがある。基本的には、介護給付は区分に応じた利用、訓練等給付および地域相談支援給付は区分に関わらず利用できる。

区分認定は認定調査員による区分調査と医師の意見書などを根拠とした一次判定と審査会による二次判定により決定される。

## \*2 (P.4) 重度訪問介護

介護給付のサービスの一つで、重度の肢体不自由または重度の知的障害、もしくは重度の精神障害があり常に介護を必要とする人を対象としている。

ホームヘルパーが自宅を訪問し、入浴、排泄、食事などの身体介護や、調理、洗濯、掃除などの家事援助、生活に関する相談や助言、外出時における移動支援や移動中の介護等を総合的に行う。

## \*3 (P.4) 重症心身障害

重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態を重症心身障害という。その状態の子どもを重症心身障害児、成人の場合には重症心身障害者という。

医学的診断名ではなく、行政上の措置を行うための定義(呼び方)である。

## \*4 (P.5) 医療連携体制加算

医療機関等の看護職員が、事業所等を訪問して事業所等の利用者に対して看護を行ったり、利用者に喀痰吸引等の医療行為を行える介護職員に対して喀痰吸引等の指導を行った場合に、

看護職員が所属する医療機関等に対して加算される報酬のこと。

## \*5 (P.6) MCS

メディカルケアステーションの略。病院、クリニック、薬局、介護施設などで働く医療介護従事者の多職種連携をサポートする非公開型の医療介護連携コミュニケーションツール。事業所等の利用者と家族とのコミュニケーションなどにも利用できる。パソコン、タブレット、スマートフォンなどで操作できる。

## \*6 (P.11) 特例子会社

障害者雇用の促進と安定を図るため、障害者雇用において特別の配慮をする子会社のこと。特例子会社になるためには、一定要件を満たし、厚生労働大臣から認定を受けることが必要。特例子会社で雇用された障害者は、親会社やグループ全体で雇用されているとみなされる。

## \*7 (P.13) eスポーツ(イースポーツ)

エレクトロニック・スポーツの略。コンピュータゲーム(ビデオゲーム)を使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

## \*8 (P.14) 自立訓練

障害者総合支援法に定められた障害福祉サービス(訓練等給付)の一つ。

障害者が自立した日常生活や社会生活を営めるよう、一定期間身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を行う。

## \*9 (P.14) メタバース

インターネット上に構築された三次元の仮想空間。ユーザーは、自分自身の分身であるアバターを使い、仮想空間の中を自由に動き回ることができる。それにより、他者との交流、商品やサービスの売買、イベントへの参加、仮想空間内の街の散策など、様々なことを体験することができる。

埼玉県内肢体不自由特別支援学校 12 校  
高等部卒業生の進路状況

年度 項目	R 2	R 3	R 4
就 労	1	1	7
在宅就労	2	1	2
訓 練	0	0	0
訓練等給付	10	9	13
介護給付	75	78	72
地活等	0	0	0
進 学	1	1	1
在 宅	1	2	5
計	90	92	100

【就労】

就労数は就労（通勤を伴う）と在宅就労を明記  
就労、在宅就労は特例子会社への就労を含む

【訓練】

国立職業リハビリテーションセンター、  
東京障害者職業能力開発校などの職業訓練機関

【訓練等給付】

就労移行支援、就労継続支援 A 型、  
就労継続支援 B 型、自立訓練（機能・生活訓練）  
などの日中活動

【介護給付】

生活介護、療養介護の日中活動や施設入所  
※福祉サービスの併用利用は各々でカウント

【地域活動支援センター（地活）等】

心身障がい者地域デイケア施設も含む

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に  
移行されました。コロナ禍は私たちにさまざまな変化をもたら  
しました。特にICT化の流れは大きく加速しました。ICT  
を活用した授業や、リモート会議・行事等が行われ、活動の  
幅が広がりました。仕事の仕方も大きく変わってきていま  
す。ICTがさらに私たちの可能性を広げてくれることを願っ  
ています。

一方、コロナ禍の中、改めて大事にしたいと感じたのが人  
と人のつながりです。今年度、本校の文化祭フィナーレを  
対面で行いました。体育館に集まり、文化祭オリジナルソ  
ングを歌いました。児童生徒・教職員は皆、頑張った隣の友  
人に笑顔向けながら歌っていました。体育館は温かい空  
気に包まれ、満たされた気持ちでいっぱいになりました。

「共生社会」と言いますが、私はこの自然な温かさこそが  
共生社会のあるべき姿なのではないかと考えます。互いを  
尊重し、認め合い、一緒に喜ぶ。特別なことではなく、一緒  
に笑顔向け合い共に生きていくことが共生社会なので  
はないでしょうか。卒業生たちにはこうした自然な共生社  
会に生きてほしいと思っています。

よりよい共生社会を目指し、「進路のしおり」をご活用い  
ただけますと幸いです。

（蓮田特別支援学校長 小秋元 美弥子）

多くの方々にご協力をいただきまして、進路のしおり30  
号が完成いたしました。心より感謝申し上げます。今号は  
『地域の中で生きてゆく～共に高め合う QOL～』というテ  
ーマのもと、重度障がいのある生徒の進路や、卒業後の暮  
らしについて視点を当てました。「共生社会」という言葉に  
合うよう、ICT等の急速な普及の背景もあり、重度障がい  
を抱える方々にとっても、個に応じた QOL を高めるための  
選択肢が拡がり、社会との繋がりを実感できる環境が整  
備されてきております。今後も、一人一人のニーズに応じ  
た、進路実現の可能性が更に増えていくことを期待し、進  
路のしおりをご覧いただいた皆様にご活用していただける  
こと願っております。

記事に関するお問い合わせ等がございましたら、右記  
にある各校の編集委員までご連絡ください。

（編集委員 柿沼 宣夫）

『進路のしおり』第 30 号

発行日 2024年3月5日

<編集・発行>

◇ 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会  
肢体不自由特別支援学校小委員会

◇ 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会

布川 英之 県立和光特別支援学校  
048-465-9770

堀 喜代司 県立宮代特別支援学校  
0480-35-2432

黒田由美子 県立日高特別支援学校  
042-985-4391

澤田 秀一 県立川島ひばりが丘特別支援学校  
049-297-7753

田野 尚之 県立熊谷特別支援学校  
048-532-3689

佐藤 勉 県立秩父特別支援学校  
0494-24-1361

愛甲 悠二 県立越谷特別支援学校  
048-975-2111

大美賀 了 さいたま市立ひまわり特別支援学校  
048-622-5631

今泉 恒星 富士見市立富士見特別支援学校  
049-253-2820

柿沼 宣夫 県立蓮田特別支援学校  
048-769-3191

石橋 勇太 県立所沢おおぞら特別支援学校  
04-2951-1102

野村 誠 さいたま市立さくら草特別支援学校  
048-712-0395

<印刷> 埼玉県立入間わかさ高等特別支援学校

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田745-1

TEL 04-2941-5771 FAX 04-2964-7744